

「幸せであるということ」(キリストの弟子の生き方①)

マタイの福音書5章1～12節

イエスキリストはその働きにおいて、教え、宣べ伝えるとともに、あらゆる病やわざらいを癒されました(4:23-4)。そして多くの群衆が癒やしや奇跡を求めてイエス様を追いかけていきました。しかしイエス様は弟子たちに対しては群衆に対してとは異なり、神の国の生き方を教えられます。

やがて群衆はイエス様を十字架につけます。弟子たちは挫折はしますが主の証人となっていました。癒やされ祝福されることも大事です。しかし救いを得た私たちはキリストの弟子としての生き方に向き合うべきです。



① 幸せであるとはどういうことなのだろうか

“心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです。…” 3

“Blessed are the poor in spirit, for theirs is the kingdom of heaven.…”

“なんと幸いなことでしょう。その力があなたにあり 心の中にシオンへの大路のある人は。彼らは涙の谷を過ぎるときも そこを泉の湧く所とします。初めの雨もそこを大いなる祝福でおおいます。” 詩篇 84:5-

② あなたは、自分が「心が貧しい」と思いますか

“私たちは、この宝を、土の器の中に入れています。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかにされるためです。私たちは、四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方にくれていますが、行きづまることはできません。…” 2コリント 4:7

“私は、貧しくあることも知っています。富むことも知っています。満ち足りることにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。私を強くしてくださる方によって私はどんなことでもできるのです。”ピリピ 4:12

③ 私たちの幸せとは生きている間のことだけなのですか

“だれでもキリストのうちにいるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。” 2コリント 5:17

“今、私は一部分しか知りませんが、そのときには、私が完全に知られているのと同じように、私も完全に知ることになります。こういうわけで、いつまでも残るのは信仰と希望と愛、これら三つです。その中で一番すぐれているのは愛です。” 1コリント 13:12-13

<分かち合ってみよう>

- ・私たちの信仰の父祖であるジョン・ウェスレーは、「人生でもっとも素晴らしいことは、神がともにおられることだ」と言って、その生涯を終えたと言われます。
「幸せな人生とは _____ だ」。あなたならどのように言われますか。